

「研究データ利活用協議会」令和3年度の活動方針

令和3年2月3日
研究データ利活用協議会

1. 令和3年度の活動方針

令和3年度も令和2年度に掲げた以下の方針を踏襲し活動する。

【「研究データ利活用協議会」令和3年度の活動方針】

1. 様々な知見やユースケースを共有し、関係者間のネットワークを構築・強化するための場をつくる。
2. 参加機関の現場の抱える関心事などについて検討し、その結果を「研究データ利活用協議会」の成果物（ガイドライン、ノウハウ集、事例集など）としてまとめることを目指す。
3. 普及・広報活動を強化し、「研究データ利活用協議会」のプレゼンス向上を図る。

2. 令和3年度の活動計画

2.1 公開イベントの開催

活動方針「1.」を受けて、機関会員の自発的な取り組みにより公開イベントを開催する。たとえば、次のようなイベントが考えられる。

- ・ RDUF 公開シンポジウム（RDUF 小委員会成果報告会等）
- ・ Japan Open Science Summit 2021（JOSS2021）への参加、協力
- ・ 図書館総合展への参加、協力
- ・ その他（講演会、研究会等）

上記のイベントに加えて、他のイベントとの共催や後援、小委員会の合同開催、新たなテーマの掘り起こしにつながるようなイベントの開催についても検討する。また、コロナ禍によるイベントのオンライン開催拡大により参加が比較的容易になった国外を含む遠隔地のイベントへの参加についても積極的に検討する。その結果として、小委員会の新規設立といった効果を期待する。これらにより、RDUF のコミュニティの拡張が見込まれる。

2.2.1 小委員会における検討

活動方針「2.」を受けて、小委員会の提案を促し、新たな小委員会を設置できる

ようにする。

なお、令和2年度第2回企画委員会において青木委員長から企画委員会への意見募集が行われ、今後の RDUF および小委員会の活動において期待するテーマ・取り組みとして次の意見が寄せられた。

- ・ 国内データリポジトリのリストアップ、その特長などの一覧作成
- ・ データ引用状況の調査や促進
- ・ 図書館関係の研究データを扱う団体等との連携
- ・ 多様な「研究データ」研究会との連携
- ・ 非公開データの判断に関する考え方、README ファイルの作り方、リポジトリの評価と選定をどうするか、等の共通化
- ・ 論文引用以外を含むデータ利活用の事例、研究データ管理の事例、データポリシーの事例分野にある程度特化した枠組み（人文／社会科学／材料科学など）
- ・ PID 取得による研究データの紐付け促進
- ・ 研究データに関するジャーナル情報・研究会資料等の集約、情報抽出、整理
- ・ 産業界とのデータ相互流通
- ・ 人材ネットワークの構築・維持

2.2.2 部会における検討

活動方針「2.」および活動計画「2.2.1」を受けて、小委員会活動等によって得られた知見の継承と展開を長期的、継続的に行うため、令和2年度に設置した部会における検討を継続する。企画委員会は部会からの申請を受けて、審査の上活動の更新について承認を検討する。

- データ共有・公開制度検討部会
- ジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会(JDARN)

また、部会の新規設置提案を受けた場合はこれについても承認を検討する。

2.3 普及・広報の強化

活動方針「3.」を受けて、普及・広報の強化を図る。具体的には会員数の増加、会員の多様化、RDUF のプレゼンス向上を図る。そのため、次の方策を講じる。

- ・ 前述の「2.1 公開イベントの開催」
- ・ RDUF web サイトおよび各種 SNS を用いた情報発信
- ・ RDUF 小委員会における成果物および RDUF 関係資料の web サイト上での公表
- ・ 成果物の積極的な利活用
- ・ Web サイトの改善
- ・ 各種会議での発表

さらに企画委員は、シンポジウム、ワークショップ（共催も含む）の開催を積極的に検討する。

3. 令和3年度の年間スケジュール

令和3度のスケジュール案を表に示す。

表. 年間スケジュール概要

	1Q (4-6 月)	2Q (7-9 月)	3Q (10-12 月)	4Q (1-3 月)
企画委員会	☆ (5 月)	☆ (9 月)		☆ (2 月)
総会・公開シンポジウム			☆	
JOSS2021（オンライン）	☆ (6/14-6/19)			
小委員会（現在活動無し）				
部会				→
普及・広報				→

－ 以 上 －